

2020 年度明治大学研究者交流支援制度
(Research Mobility Grant MU-RMG 2020-08)

実施報告書

招 聘 者：Prof. Dr. Sebastian Hoffmann

所属機関：HHL Leipzig Graduate School of Management

招聘期間：2023 年 5 月 1 日～10 日

2020 年度明治大学研究者交流支援制度 (Research Mobility Grant) を利用し、本学に HHL Leipzig Graduate School of Management の Sebastian Hoffmann 博士を招聘した。この招聘は当初、2020 年 5 月に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期を繰り返し、2023 年 5 月ようやく実現に漕ぎ着けることができた。度重なる延期にもかかわらず、柔軟に対応していただいた国際連携本部および大変お世話になった国際連携事務室の羽田紘大氏と根岸和輝氏に心より感謝申し上げます。

Hoffmann 博士は、HHL ライプツィヒ経営大学院 (ドイツ) 会計学研究教授であり、ブカレスト経済大学 (ルーマニア) 客員教授、ドイツ連邦金融監督庁 (BaFin) 上級学術顧問、国際会計教育研究学会 (IAAER) 執行委員会副会長、国際責任ある科学のためのピッチングリサーチ学会 (InSPiR2eS) 運営評議会学際研究担当上級副会長でもある。研究面では、会計史はもとより、会計基準・会計法規、制度導入および法執行に特に重点を置いた学際的な研究課題に取り組んでいる。彼の研究は、『Accounting, Organizations and Society』、『Accounting, Auditing & Accountability Journal』、『Business History Review』、『Accounting and Business Research』、『Critical Perspectives on Accounting』などの主要国際ジャーナルに掲載されており、2020 年に会計史文献に最も重要な貢献をした論文の著者に贈られるロバート・ギブソン・マヌスクリプト賞を受賞している。また、『Critical Perspectives on Accounting』のゲスト・エディター、『Accounting History』、『Accounting in Europe』、『Journal of International Accounting, Auditing and Taxation』、『Journal of Accounting and Management Information Systems』の編集委員も務めている。

彼とは、2014 年に在外研究先のエディンバラ大学ビジネススクール (イギリス) で在外研究者同士として出会った。当時、彼は短期間だけ研究のために滞在した後にドイツへ帰国したが、間もなく 2015 年にエディンバラ大学ビジネススクールの専任教員として再会した。在外研究中に育んだ彼との友人関係はその後も続き、今回の招聘へと繋がった。招聘を予定していた 2020 年時点では、彼はエディンバラ大学ビジネススクールに所属しており、ちょうど研究休暇を取得するタイミングであった。そこで本学に招聘することになったが、コロナ禍により延期となり、さらにコロナ禍が続く中で、彼は HHL ライプツィヒ経営大学院へ所属を移すことになった。

コロナ禍が和らいだ 2023 年 5 月 1 日、ついに彼は来日した。来日は 2 回目であり、1 回目は京都・大阪・神戸を訪れたが、東京とその周辺は今回が初めてとのことであった。ゴールデンウィークで大学が休講であったため、翌日の 2 日から 8 日まで、富士山麓一周、神社仏閣の拝観、歌舞伎観劇、産業遺産の見学、日本食などを通して日本の歴史や文化を体験してもらった。

またその間には、お互いの研究活動や教育活動について意見交換を行なった。招聘にあたり日本の歴史や文化を体験してもらうことにしたのは、彼の研究の中心が歴史的な文脈の中で会計を探究することであり、日本の会計思想を理解するためには、それを形づくる歴史的・文化的背景を現地で知り感じとることが重要だと考えたからである。

5月9日は、4時限目（15時20分～17時00分）に、駿河台キャンパス・リバティタワー13階 1135 教室にて特別講義を実施した。特別講義のテーマは「Inflation and accounting: lessons learned from the German hyperinflation in 1923」であった。特別講義には本学の学生および教職員8名が参加し、少人数であることを活かした双方向的な講義とディスカッションが展開された。特別講義は、まずパワーポイントを用いて、世界的な現象として現在大きな注目を集めているインフレについて、ちょうど100年前の1923年にドイツが経験した近代史上最も壊滅的なハイパーインフレーションを題材に、その当時ドイツ企業が会計情報システム上で経験したことが、会計史料に基づいて詳しく説明された。続いて、Hoffmann 博士と参加した学生・教職員との間で、ドイツと日本における会計思想の歴史的に密接な関係を認識し、（ハイパー）インフレーションの状況が現代の会計および報告システムの運用にどのような課題を提示するか、特に30年以上にわたってインフレを経験してこなかった日本における社会経済的影響を理解するためのディスカッションが行われた。すべて英語による講義とディスカッションであったが、2年生を含む参加者全員が活発に発言をし、特別講義は大いに盛り上がった。特別講義後には、Hoffmann 博士と教職員・学生との交流のために懇親会を設定したが、残念ながらゼミ生6名との会食にとどまった。

Hoffmann 博士は、翌日10日の早朝に帰途についた。今回の招聘では、多くのリラックスした自由な時間の中で、今後の共同研究や共著論文の執筆につながる意見交換や具体的な提案を得ることができた。また、特別講義を通じて、一方向になりがちな会計の授業を双方向で行うためのヒントも得られた。研究と教育の両面において、大変充実した10日間となった。関係諸氏に改めて感謝申し上げる。

経営学部専任准教授
大槻 晴海

参考：特別講義のポスターと講義資料の一部

特別講義

明治大学主催 研究者交流支援事業

-Inflation and accounting: lessons learned from the German hyperinflation in 1923-

2023年 5月9日 火 4限

明治大学駿河台キャンパスリパティータワー 1135教室(13階)

講演詳細(使用言語は英語です)

Exactly 100 years ago, Germany experienced the most devastating inflation in modern history. Recently, this topic has resurfaced as a global phenomenon with substantial public attention, even in Japan, a country that did not see inflation for more than three decades. Acknowledging the historically close ties in accounting thought between Germany and Japan, this lecture explores the origins and socio-economic effects of the German hyperinflation in 1923. It details the experiences German firms made with their accounting information systems 100 years ago. Based thereon, it will be illustrated which challenges a (hyper-)inflationary situation presents for the operation of contemporary accounting and reporting systems.

講師紹介 Prof. Dr. Sebastian Hoffmann

Sebastian Hoffmann is a Research Professor of Accounting at HHL Leipzig Graduate School of Management (Germany), and a Visiting Professor at the University of Economic Studies (ASE) Bucharest (Romania).



お問い合わせ

経営学部 大槻晴海 准教授
E-mail:otsuki@meiji.ac.jp

Slide 2

Inflation – then and now!

The most prominent example of hyperinflation: Germany in the 1920s

Source: Bresciani-Turroni (1931), SG Cross Asset Research

HHL LEIPZIG GRADUATE SCHOOL OF MANAGEMENT

Prof. Dr. Sebastian Hoffmann

Slide 11

The German experience: 1923

Management reporting



- **Reporting format:**
 - Rather quantities than monetary values
 - When monetary values were still predominant, internal reporting also fell into a state of chaotic disorder
- **Decision-making:**
 - Became basically impossible based on traditional financial calculations
 - Efficiency and productivity measures used, or calculations made in foreign currency

HHL LEIPZIG GRADUATE SCHOOL OF MANAGEMENT

Prof. Dr. Sebastian Hoffmann